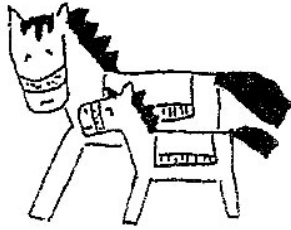


お馬のかあさん
やさしいかあさん
子馬をみながら
ぽっくりぽっくり
あるく

おうまのおやこ

子育ても
あせらず待ちましょ
ポックリ、ポックリと



令和4年 3月 No. 328

〒 760-0044 香川県高松市御坊町2-2
高松第二保育園内地域子育て支援センター
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857
<https://oumanooyako.com>



(厚生労働省・高松市委託事業)

～どなたでも～		3月の主な活動	～お気軽にどうぞ～
3月 4日 11日 18日	金	ヨガを楽しむ会 14:00～15:30	初心者ばかりでヨガを楽しんでいます。 どなたでもどうぞ。
3月 11日 25日	金	うたうたい「カラヴィンカ」 19:00～20:30	「愛の讃歌」を今から練習ですが、 声を出して心身もすっきりしてみませんか。
3月 12日 26日	土	体験保育 10:00～12:00	園の子どもたちとも一緒にあそびましょう。
3月 17日	木	こうさぎおはなし会 15:00～16:00	わらべうたや楽しいおはなしは大人も楽しめます。 お子様とどうぞおいで下さい。
3月 25日	金	香川みすゞさんの会 14:00～16:00	子どもや高齢者、障害のある人に重点をおいた 災害時の対処についてお話を聞きフリートークします。
3月 26日	土	絵本と小物づくり 14:00～16:00	子どもがよろこぶ手あそびシアターをつくります。 どうぞご参加下さい。

・火～土の9:00～18:00までは、園内開放して
いますので、親子でご来園下さい。
(但し、月・日曜・祭日は休み)

育児相談(月～土) 9:00～18:00
しつけや子育てについての悩み、保育園生活
入園・見学についての相談もどうぞ。



とお色あそ 日本あ 丘草 花の 日本 丘草 花の
お花と 色とり 日本 丘草 花の
いりの 花の波 本じ 屋上 散る
沖まに どのり じゆう の上 軒に
まゆで ゆのり 海に 散る 花が
まいす ゆのり 散る 花が 散る
りらつ づい 花を 散る 花が
れつく ちら 花を 散る 花が
まて、い、方、に、散る、花が
ましょ。ましょ。ましょ。ましょ。

花びらの海

金子みすゞ童話全集②
「美しい町・下」より



耳たぶ

新橋駅から“山の手線”に乗った。腰かけて、本を読みはじめたところへ、子どもを背負った若い母親が乗り込んで来、わたしの左へ浅く腰をおとした。

酒井 大岳（さかい だいがく）

昭和10年3月13日、群馬県吾妻郡東村に生まれる。駒沢大学仏教学部禅学科卒業。曹洞宗長徳寺住職。南無の会会友、禅を学ぶ会、あさなぎ書道会主幹。著書に『朝の音』『風の中を歩く』『二人の山男』『さわやかに生きる』『道元禅師御絵伝』などがある。

見るともなしに見て、

「おや？」と思った。都会ではめずらしい、ビロードの衿の“ねんねこ”を着ているのである。東京のまん中をぐるぐるめぐる電車の中へ、それも、色の褪せたあまり上等でないねんねこをつけて、堂々と乗り込んで来たこの若い母親を見て、わたしは「えらい！！」と思った。髪を全部うしろへ梳いて、赤ん坊の顔にふれないよう、やや高めにくるりと丸くたばねておく。わたしと同じように、上野駅で乗りかえて群馬の山の方へ帰ってゆく人でもあろうか、どう見ても田舎の農家の嫁さんらしく見える。

サトウハチローの詩集『おかあさん』の中に、このビロードのねんねこをうたった一節があったのを思い出した。

誰かがおんぶされて行くねんねこぼんてんの
ビロードのえりに母がいる
みかんのおへそのギザギザに母がいる
古いピアノのうるしのくもりにもいる
ハサミで切りとった爪のそりかえったとんがりにも
母がとまっている



これは“いつも呼ぶ、母が呼ぶ”と題された詩の、第四節である。

十年も前のこと、ある寺で開いた“禅の集い”の、母をテーマとした研修会で、わたしはこの詩を百人余りの参加者にプリントして配り、母について考えてもらった。

いま、それを思い出したのだった。よごれたねんねこの衿に、頬をすり寄せては、キョロキョロあたりを見まわしている赤ん坊・・・ああ、この子も、ねんねこの匂いを忘れることはないだろう・・・そう思ったら、わたしの心もぬ

くぬくして来るのであった。

ふたたび本の上に目を落とし、一と駅も過ぎたころであったろうか、わたしの左耳に、なにやらやわらかいものが触れた。そっと横目で見ると、赤ん坊の右手がねんねこの上からのびて来ている。折から、わたしの右隣りのせまい座席に、中年の婦人が尻を押し込んできて、左耳はさらにその方へ近づいた。赤ん坊はわたしの耳たぶをしっかりとつかんだ。そして、小さなやわらかい指で、しきりにわが耳たぶをもみはじめたのである。

本を閉じ目をつむって、わたしは考えた。



「この赤ちゃん、きっと退屈していたのにちがいない。乗り慣れない電車に乗って、どこを見てもおもしろいものはひとつもない。しかも、ねんねこの中にすっぽりはまり込んで自由もきかない。吊り革にぶらさがったおじさんたちの顔は、どれもみんな殺風景だ。ああ、都会の電車なんてこりごりだ。と、右横を見ると、なんとなく田舎ふうの、あったか味のあるおじさんの耳が見えた。電車の揺れで、ねんねこの衿がゆるんで来た。思いきって手をぬき出すと、その手は難なくおじさんの耳にとどいた。おじさんはチラと見たが、ほほえんで、いっそう近寄って来てくれた。おじさん、すいません。ぼくはたいくつしています。しばらくその耳をおもちゃにさせてください。ぼくは生まれたときから、とうさん、かあさんの、耳たぶをもてあそぶことが好きなのです。ぼくのおかあさん、きのうから考えごとばかりをしています。いまだって、ぼくがこうしておじさんの耳をおもちゃにしていることに気がついていません。なんだか、ぼくの家へののっぴきならぬことが起きたらしいのです。おかあさんはときどき涙をふいたりしています。だから、ぼくはおとなしくしていたいのです。どうか、しばらくのあいだ、おじさんの耳をぼくに貸しておいてください——そんなことを、この赤ん坊は思っているのかもしれない。そうか。そうなのか。いいとも、いいとも。そういえば、きみのおかあさん、沈んだ顔をしているね。下を向いて、しきりに考えごとをしている。なにかあったんだね。きみが今おかあさんにうるさくすれば、おかあさんは気が滅入って何をするかわからない。耳たぶぐらいでよかったら、遠慮なくおもちゃにしてくれよ。手ごろな位置に、手ごろなおもちゃがあって、きみもよかっただろう。おじさんだって、きみに耳たぶつままれて、いやな気はしないよ。できることならプレゼントしたいくらいだ。かまやしない。うんとたのしんでくれよ。なんだか眠

くなってきたな。まるで床屋さんへ行っているようだよ」

—— わたしは本気でそう思っていた。眠りもしなかったが、赤ん坊にしばらく耳をあずけていたことは事実である。

電車がガタンと止まると、母親はいきなり立ちあがり、人をかき分けてホームへ出ていった。「上野かな？」と思って見ると、「す・が・も」とある。「いけない！！」と思って立ったが、もう間に合わなかった。ドアは閉まって、電車は動き出してしまった。

ドアの近くの吊り革にぶらさがって、わたしはひとり苦笑していた。「耳たぶ提供、六つも乗り越し…」だが、ふしぎに「馬鹿を見た」という気はしなかった。あの小さな手と“バイバイ”できなかつたことだけが、なんとなく心残りとなっはいたが、…。

あったかい耳たぶをつまみながら、わたしはつぎの大塚駅で電車を降りた。

こんなマークに注目しよう！

環境に配慮した商品や、再生原料を使った商品を見分ける目安として、次のようなマークがついているかどうか注意してみましょう。

①エコマーク



環境庁の指導で（財）日本環境協会が認定した。環境を汚染せず、環境改善に役立つ商品についています。例えば100%古紙を原料にしたトイレットペーパーや再生パルプから作られたノート、OA用紙などにもこのマークがついています。

②グリーンマーク



（財）古紙再生促進センターが、古紙再利用の拡大をはかるために実施しています。古紙再生製品につけられたグリーンマークを、学校や町会・自治会などの団体で集めると、点数に応じて苗木や草花と交換できるしくみになっています。

③リサイクルマーク



「全国牛乳パックの再利用を考える連絡会」が決め、製紙メーカーの協力で、紙パックを再利用したトイレットペーパーやティッシュペーパーについています。